

## 「日英共同シンポジウム 2020～次世代ヘルスケアの姿～」開催のお知らせ

今日、ヘルスデータを活用する上で、個人を軸にした社会における信用を確保することが重要となります。そこで、データ活用の公共の利益と個人の権利を課題に、個人を軸にしたデータ活用とシステム連携による信頼と価値を生み出すため、Authorized Public Purpose Access (APPA)を提案しています。公的な目的の元、データの価値が個人や社会に還元されることや情報共有は、国内のみならず国際的にも有益なものとなります。

この講演では、イギリスと日本のデジタルヘルスにおけるリーダーが、テクノロジーの活用、ヘルスデータへの新しいアプローチ、デジタルヘルスの可能性、課題と実現について共有します。是非とも奮ってご参加ください。

日時	2020年2月17日(月) 午後13:00-16:00 (受付12:30～)
会場	国立国際医療研究センター・研修センター棟1階 グローバルヘルス政策研究センター (iGHP) 〒162-865 東京都新宿区戸山 1-21-1
アクセス	<a href="http://www.ncgm.go.jp/access/">http://www.ncgm.go.jp/access/</a>
テーマ	UK-Japan Joint Symposium 2020 on Next Generation Health
言語	英語 (通訳なし)
参加費	無料・事前登録制 (定員になりましたのでお申し込み受付を終了しました。)
参加定員数	80名程
主催	国立国際医療研究センター(NCGM) 国際協力局 グローバルヘルス政策研究センター (iGHP)
共催	駐日英国大使館

## プログラム内容（敬称略）

歓迎の辞

13:00-13:05 TBA

開会の辞

13:05-13:10 国立国際医療研究センター（NCGM）宮田裕章

基調講演

13:10-13:35 “グレーター・マンチェスターにおけるデジタルヘルス”  
マンチェスター大学 John Ainsworth

セッション 1: 講演 イギリスにおける次世代ヘルスケア

13:35-13:50 “信頼性のあるデジタルヘルスとリサーチのためのイノベーションと  
デザイン”  
マンチェスター大学 Gary Leeming

13:50-14:05 “デジタルヘルスプログラムの課題と実現”  
マンチェスター大学 Ruth Norris

休憩（14:05-14:35）

セッション 2: 講演 日本における次世代ヘルスケア

14:35-14:45 “日本とイギリスにおける超高齢化時代の疾病負荷”  
NCGM 野村周平

14:45-14:55 “静岡県における国民健康保険のデータベースを用いた疾病および薬  
療法パターンの人口ベースの研究”  
東京大学 隈丸拓

セッション 3: パネルディスカッション 今後のデータ活用とその可能性

14:55-15:55 パネルディスカッション, 質疑応答  
モデレーター: 宮田裕章  
(講演者リスト参照)

閉会の辞

15:55-16:00 NCGM 宮田裕章

シンポジウムの後にネットワーキングの機会がございます。（軽食付き）

## 講演者（五十音順）

- John Ainsworth, センター長, 英国マンチェスター大学健康情報センター
- 隈丸拓, 特任准教授, 東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座
- 野村周平, 特任研究員, iGHP, NCGM; 特任准教授, 慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室
- Ruth Norris, 戦略部長, 英国マンチェスター大学健康情報センター
- 藤田卓仙, ヘルスケア・データ政策プロジェクト長, 一般社団法人 世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター
- 宮田裕章, グローバルヘルスシステム・イノベーション研究科長, iGHP, NCGM; 教授, 慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室
- Gary Leeming, 最高技術責任者(CTO), 英国マンチェスター大学, 健康情報センター